

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN-VOL.2, AUGUST 1985-EKUTEBIAN〉

8



まい あーと・アートフラワー「向日葵」by 藤田聡子



◆左から村山祐花子[?]、森山佳代子[?]、大塚清美[?]、金子知可[?]、田中ゆかり[?]（みんな立川第四小学校）
◆山本孝雄[?]（左）、小嶋英敏[?]（ふたりとも昭島富士見丘小学校）



Allons jouer dans l'eau!

水とあそぼう

◆観覧の一人、小江慎一郎[?]



◆去る6月28日に歴史的瞬間、オープンセレモニーが盛大に行なわれた。



◆左から中村浩[?]、矢島裕二[?]、小崎雅人[?]（みんな立川第四小学校）
◆左から中谷香[?]、藤玉映[?]、寺田みのり[?]（みんな昭島東小学校）



昭和記念公園の中に海が出来た！といえば「ラッセー」といわれそうだが、「限りなく海に近いプール」といっておこうか。愛称「レインボー・プール」。6月28日、しょほふる池の中で華やかなオープンセレモニーが行なわれた。海のように波が立ち、波音はホンモノ鮎まけのリアリティ。遊ぶ人と手をつないで臉をとじれば、そこはもうワイキキビーチ。なーんちゃって。スリル満点、豪華なスライダールールに人気裏中も当然か。



◆山崎勇[?]（左）、榎井秀行[?]（ふたりとも昭島東小学校）
◆左から中村一典[?]、中島毅尚[?]、石田尚久[?]、五十嵐幹朗[?]



人気のスライダールール



◆中西智子[?]（幸町3丁目）◆久保田裕子[?]（立川第四小学校）



◆原田世知[?]（昭島富士見丘小学校）◆左から滝田三香、瀬床志保、島津見子（みんな昭島東小学校）



この夏、郷土の嘶を 読んでみないか?

多摩、そして立川にもその歴史がつかつてきた多くの民話、むかし話がある。暑い暑いとグチる前に、これらの本をヒモトいてみよう。心に一陣の涼風が吹こうというもの。新刊の二冊がここにあって、紹介してみよう。

続立川のむかし話

立川の人びとによって語られてきたむかし話を集めて、タイトルとかイラストをみると、この土地でも語られてきたスタンダードなものが多い。しかし、「語り手の語られた場の雰囲気を出すように努め」はしがき、というため、ひと味違った物語がたのしめる。

また、立川での話ならではものが随所にみられ、「花咲かじい」では枯木に花を咲かせるところが、江戸街道になつているところなど、好例であろう。



創作民話

梅林に消えた雪女

著者は国立市在住のシナリオライターであり、詩人でもある原田重久氏。「おとよ婆さん口伝」とある通り、幼い頃に何十回、何百回となく聞いた。

立川伝言板

★枝豆のおいしい季節——枝豆あんのくし団子はいかにも夏らしい。錦町職安のすじ向い赤レンガのビル一階の「ゆきこ」は若い店主夫婦のセンスとまごころがこもる小さなお店。甘味を極力おさえた「白玉ぜんざい」「抹茶あわゆき」は夏向きの絶品。「くす切り」は注文をうけてから作るの10分の待ち時間が必要。上生菓子には3週間毎にデザインをかえる。店主の友人の陶芸家國田民雄氏の抹茶茶碗もある。日曜定休。0425-25-0780

て育ったトーンをそのまま再現を試みたのが本書である。

おとよ婆さんとは、著者の、おばあちゃんにあたる人。「おとよ婆さん」は、谷保天神下の「竹山」という広い竹藪に囲まれた旧家の娘で、わが祖父・清次郎の許に嫁いできたのは徳川幕府が終るころだった」というとよ婆の口から、表題の「梅林に消えた雪女」「水売りの水太郎」「さんかく山の子持ち地蔵」など、多くの「お話」が語りだされる。

「立川市に源を発する矢川の、五智如来さまの近くに住んでいた佐川五平は、元村の谷保はもとより、近郷に聞かされた井戸掘りの名人だった。」ではじまる「掘り井戸の中の弁天。」なにやら面白い。「お話」がはじまりそうなお話。

「新話」などと銘うってあるけれども、まるきりの作り話ではなくて、ありようは、わがおとよ婆さんの話の落として子みたいたいの話である」と著者自身が前書きしている。

父の座のつぎに私を座らせた。下座にはけつして座らせなかつた。彼女は私のつぎに座をとるのである。そして、きまつたように、「むかしむかしなあ……」と昔話を始めるのだった。

公民館、同日2時幸分館。★グリム生誕二百年記念大メルヘン展が8月1-6日、立川高島屋六階催物会場にて。グリム童話の書籍や人形など多数。一般300円、小中高生200円。同じく高島屋にて8-12日に多摩古本祭、瀬戸物市、夏の婦人服決算大処分市が催される。★路上で水彩画展が7月7日、七夕の日に催された。「北口大通り商店会」の主催で水彩画の実演が行われ、道ゆく人の眼をたのしませた。立川駅北口大通りの高島屋、伊勢丹、たましん、など数ヶ所のビル前で、彫刻家、たちが腕によりをかけて、ペンギン、白鳥などさわやかな作品を仕上げた。つゆ間をぬって晴れてはいたが、むし暑い日曜日の大通りに涼をおくっていた。

三菱の自動つみたて定期預金 立川支店

は語る 藤田聡子さん

「アートフラワーをやるようになってしまっ、自然観察についてうんですか、よくものを見つめるようになってきました。やっぱりお手本は本物のお花なんですわね」

お手本がピアノの発表会をする時に洋服の袴に小さな造花で飾ってあげたいと思ひ、近所の方にお願ひしたら「作り方おしえてあげるとか、ご自分でされたら」と声をかけられたのがこの道をはじめた動機とか。

以来、朝日カルチャーセンター立川校で宮脇美代子師から本格的に習ひ表紙の日向葵のような大作に挑むようになった。



「月に二度ほど近所の奥様に教えるのもいるんです」

えくてびあん 夏祭り

八月は年中で一番暑い時期です。任間の猛暑がすぎ、日も陰る頃どこからともなく聞こえてくるのは祭囃子や太鼓の音。その音にひかれて浴衣にうちわで出かけたくなるのは、どなたにも宿っている。ふるさと、ごころでしょう。

日本人は実に祭り好きな国民です。これほど行事を大切にす民族はいないのではないかとおもわれます。祭りや行事には、千年を超える昔にその起源をさかのぼるものも、つい最近から行われはじめたものもあります。これらはすべて、私たち日本人の生活や物の見方、感じ方を表している。

窓を開けると、すぐ目の前の私達のクラスの花壇に、みんなを種をまいたサルビアの花が見事に咲いていました。黄色く乾ききつた土の上でサルビアの花は、見てくれる人もいないのに、毎日赤く、誇らし気に赤く咲いていたのだなと思ひました。

校庭へ出てジョウロを探しましたが見当りませんでした。しかたなく掃除用のバケツを教室の中から持ち出して、それで水をやりました。乾いた土はビチビチと愛らしい音をたてて気持ちよさそうに水を吸いました。急に花壇が生きやかなりました。

別に悪い事をしてるわけでもないのに、開いている戸口からこっそり入り、静まりかえった廊下を忍び足で教室へ急ぎました。床のきしむ音が妙に大きく響きました。



問題集はやはり机の中に置き忘れてありました。ホッとするとたんに汗が吹き出しました。雨漏りの大きなシミのある白い木綿のカーテンを通して、強い西日が教室中に差しこみ、閉めきつた教室はむせかえるような暑さでした。

真如苑だより

いよいよ、お子様ごとも夏休みです。しつかり計画を立てておられるでしょうか。真如苑の精舎参観は8月も休みません。おでかけ下さい。

8月29日(休) ■日時 7月は27日(休) ■立川市民(成人)に限らせて頂きます。

お申し込みは、えくてびあん・コンパニオン(本誌を手渡してくれた人)へ。

工房から

昭和記念公園の中にできた「レイノボー・プール」に入気がどうにかナメでありましよう。お値段、大人一、五〇〇円、小人七五〇円。幼児二〇〇円。ファンパツしてみますか。

立川クイズ 学校名と所在地が必ずしも一致しているとは限りません。次のうち立川市内に所在している大学はどれでしょうか。

えくてびあん 第11号 昭和六十年八月一日発行



TODORO
HAWAII
布哇にドーンと轟いた

●今月は
西野 恵さん

KOSEI
ニッポンの鼓声



超美員の客席、演奏が終ると観立ちの拍手づくめ

名は体をあらわさない。メグちやんなんて優しい名前から、この豪放なツラ魂をだれが想像しようか。「真如太鼓(柴崎町一丁目)の打頭。国内でも国立劇場などでそのレベルの高さに評価が定まって

きた矢先、今度はハワイへとんで移民百年祭、お祝いにドーンと叩いた。ぬけるような碧い空がグラツツと揺れるほどの迫力に聴衆はボーン然。会場観立ちの喝采はいっ止むのか。(本誌特写・加藤正嘉)



丈火一点張りの輪に、センチメンタルな音楽の感性をそなえて、打頭の風格も充分。だが彼は決してスタンド・プレーヤーではない。「和をもって轟しとす」の精神が



NBCホールなど、一流のステージで叩きハワイアンたちをわかせた「真如太鼓」面々



北原圭子さん(二期会)らがくむ合唱団のジョイントもえて、ステージはいやがうえにも盛り上った



西野さんほど「動」と「静」の呼吸を心得ているドラマーは、いないといわれる